

KYOTO SAGA
UNIVERSITY OF ARTS
PUBLIC RELATIONS

VOL.01 SUMMER
2002

京都嵯峨芸術大学広報

Special Issue

希望と決意と

—「京都嵯峨芸術大学広報」の発刊によせて—

News

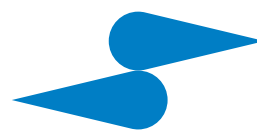
予算および決算報告／新校舎建設^{ほか}

Topics

特別講座／行事報告^{ほか}

Information

入学試験関連情報／展覧会情報^{ほか}



KYOTO SAGA
UNIVERSITY OF ARTS

希望と決意と

—「京都嵯峨芸術大学広報」の発刊によせて—

三好郁朗 ●京都嵯峨芸術大学 学長



「嵯峨美」の30年を経て、学園にとっての新しい時代が始まりました。私立大学の経営をとりまく環境が大変に厳しいなか、あえて四年制大学を開学し、学園のさらなる発展を期することができるのも、それだけの変革を進めるに足るエネルギーが学内に蓄積されてきたからであり、それは、われわれの先人が短期大学における芸術教育の有効性を広く社会に示し、その期待に応えてきた成果であるとともに、そうした活動を側面から支援いただいた関係各位のご理解の賜物でもあります。

学園にとってこれからの目標は、生まれ変わった京都嵯峨芸術大学ならびに同短期大学部を、ここで学ぶ学生諸君、ここを職場とする教職員がともに誇りに思える大学へ育て上げることでしょう。そのためにはまず、新たに本学独自の芸術教育システムをつくりあげることが大切です。学生諸君には、みずから自己発見と自己成長を果たしながら、単なる造形技術だけでなく、人類の普遍的財産としての芸術文化、人類の新たな可能性を示唆する美的創造について学んでもらいたい。構想の美しさ、視点の独創性、高い理念性といったところから、実際のモノ、コト、あるいは行為に至るプロセス全体を設計、企画、制作できる、高度の実践能力を身につけてもらいたい。そのための教育システムをなんとしても確立しなければなりません。それと並んで、このキャンパスを、学生諸君が多感な年月を過ごし、多くの出会いを体験し、友情を育み、美意識を練磨していくのにふさわしい場へと整備充実させていくことが肝要です。要するに、大学という容れ物とその中身の両面にわたって、われわれが理想とする姿を思い描き、そこへ少しでも近づく努力を構成員が一体となって継続的に遂行していかなければなりません。

そのためにまず、本学の教育理念、運営理念をあらためて明確にするとともに、理念から実現

への条件整備をできる限り具体的な年次計画として提示し、構成員の積極的参画を求めることが必要です。現在進行中の「四年制大学設置とそれにもなう短期大学の改組と学内整備」(平成13～平成16年)を第一次学園再編計画とし、つづく第二次、第三次計画についても、可及的速やかにその策定をはかりたい。また、こうした持続的改革には膨大な人的エネルギーが必要であり、全教職員が大学の未来像を共有して、その実現に努力できるよう、それなりの職場環境、労働条件が考慮されなければならないでしょう。

本学にあっても、近年、受験生の漸減傾向は否みがたく、とりわけ短期大学部の将来を不安視する声もあがっています。しかしながら、大学における学びの様態は今後ますます多様化し、生涯教育、社会人教育など、18歳人口だけが入学対象でなくなっていくと思われます。そのとき、学園の中に四年制大学、短期大学、専攻科、さらには大学院をあわせもつということは、学生の進路の多様性、柔軟性を担保し、新しい時代の芸術教育の多様な可能性を探っていく基本条件が整うことだともいえます。受験生の確保だけに振り回されるのではなく、本学独自のアドミッション・ポリシーを明確にし、受け入れた学生諸君にどのような教育をおこない、何を身につけてもらおうとしているのか、当の学生諸君はもとより、保護者の皆様にも、社会一般に対しても、本学における教育成果をしっかりと保障していく姿勢こそ、いま一番必要とされるものであります。

芸術学部が完成する平成16年度末までは、学内組織を大きく変更することは難しいのですが、大学院の開設ならびに短期大学部の将来のあり方については、早急に結論を得たいと思います。大学院(修士課程)については本年度中に発足に向けた作業委員会を設置します。短期大学部の将来については、カリキュラムや教育目標にお

いて、本学芸術学部とも、他の芸術系短期大学、四年制大学とも異なった、本学独自のものを持つ必要があると思います。一般的な流れから言うと、これからの短期大学は、社会人教育、各種の資格取得、老年者の社会進出、職業実践教育など、広義の生涯教育に特化した機関として再生をはかるべきかもしれません。学園内のさまざまなレベルで早急に議論を進め、本年度中には一定の方向が見えてくることを期待しています。なお、短期大学部については専攻科の教育体制の見直しと充実も必要です。さしあたって、専攻科会議の責任者として、これまでの主任に代えて専攻科長を置き、専攻科充実への足がかりとします。

現在の本学の諸施設は、遺憾ながら学生諸君の期待に充分応える状況にはありません。学園の将来をより確かなものにするためにも、施設面での充実、その前提となるスペースの確保が必須と考えます。幸いその第一歩として、規模は小さいのですが、桂川添いの旧NTT施設跡地を入手できましたので、ここに本学のメインエントランスともいべき新校舎を建設します。世界に誇る風致地区という環境にマッチした、今後の本学施設のあり方を理念的にリードするような建物にできればと願っています。なお、現在の実習棟、教室棟についても、やがて建替えが不可避となります。とくに両棟は現在の耐震基準に適合しない建物で、大規模災害に対する不安もあります。この際、将来にわたる改築計画を立案し、やがて来る一大事業に備えておかねばなりません。

大学の経営において企画・広報部門の果たすべき役割は大きい。それが効果的に行われるためには、大学の諸活動がつねに企画性、計画性に富み、一貫した経営戦略を反映したものにならなければなりません。そのため、新たに企画広報室(企画広報課)を設置しました。このたび新たに発行されることになったこの「京都嵯峨芸術大



学広報」も、そうした活動の一端であり、大学のさまざまな活動について、教職員はもちろん、学生、保護者、関係各方面に広く情報を公開し、本学への関心と認知度を高めてくれるよう、その効果に期待しています。あわせて学内諸委員会、事務組織の見直しも進め、大学附属の諸施設(図書館、博物館、ギャラリー、芸術文化研究所)を統合する「附属施設センター」を設置しました。大学の内外を結ぶインターフェースとして、その活動がより活性化することを期待しています。また、今秋には、本学と大覚寺との共催で「京都嵯峨野文化サロン」を開設します。京都にしっかりと根を張った大学として立っていくため、大学から地域社会へ向けて多彩な文化情報を発信する拠点のひとつに育ってくれるよう願っています。

18歳人口の減少にどう対応するか、すべての大学にとって避けることのできない課題ですが、とくに本学程度の規模の大学には深刻な問題であります。しかしながら、最後はそれぞれの大学における教育の質の問題であり、学生諸君の満足度の問題であり、そのために大学がどのような努力をしているのか、そのことを社会に正しく広報し、理解を求めていくことが大切です。また、教職員がそれぞれの立場でFD(ファカルティ・ディベロップメント)、SD(スタッフ・ディベロップメント)に努めるとともに、学生募集活動や広報活動のあり方を見直し、安易な外部委託に流されることなく、自らの努力で貴重なデータとノウハウの蓄積、分析に努めることも大切と考えています。

決算および予算報告

1 平成13年度決算

収入の部では、芸術学部・短期大学部ともに定員を上回る入学生が得られ、当初予想された学生生徒等納付金収入の大幅な減額は回避することができました。ご承知の通り、平成13年度発足の四年制大学の定員は、従前の短期大学定員の2分の1を転換することで確保されています。さらに臨時的定員の返却もあって、平成16年度までは学園全体の収容定員の減少が続くことになっています。寄付金収入については、卒業生をはじめ関係各方面の皆様から、創立30周年記念事業への暖かいご協力を頂くことができました(詳細は第3項)。また、年度末になって現在の校地にほぼ隣接する場所で新校地を獲得することができ、そのための資金の借入を行いました。

支出の部では、四年制大学開設に伴って新たに教員を迎えたこと、現役教員がお二人も急逝されたこと、定年退職者が2名あったことなどで、退職金支出を含む人件費が平成12年度より増大する結果となりました。施設関係では、上記の新校地取得があったため、昨年度の研究棟建設とほぼ同規模の支出になりました。設備関係では、昨年度に続く四年制大学設置経費が大きく、機器備品等の増設・充実が順調に進んでいます。これらにより、平成14年度に繰り越す支払資金の額は、昨年度を約3,300万円下回る結果となりました。

2 平成14年度予算

平成14年度の学生数は、芸術学部(1・2回生)の在籍者が増えるものの、短期大学の学生数が大幅に減少するため、これに連動する学生生徒等納付金収入は、平成13年度に比してさらに減額になると思われます。財政的には非常に厳しい状況になることを覚悟しなければなりません。人件費支出を含め、経常的経費は極力削減に努めたいと思います。ただし、定年年齢の引き下げ措置によって今年度末に教職員合わせて6名の定年退職者が予定されていますので、人件費には退職金支出が相当額計上されています。一方、四年制大学設置に伴う機器備品等の購入や教室の改修計画も最終段階に入ります。

また、大学を取巻く環境がいろいろと厳しいとさだからこそ、学園の将来的発展のため、教育研究環境の改善・充実を怠ることはできません。新たに獲得した校地には、年度内着工を目標に新校舎を建設し、学園構成員のみならず地域社会に開かれた学園として、施設整備を展開していきたいと願っています。

これらのことから、平成15年度に繰り越すべき支払資金は、平成14年度当初の額から、約5億6,000万円ほど減少する予定です。今後、四年制大学完成年度を目標に、学園財政が安定し好転に向かうよう、広く皆様のご理解を得て努力していきたいと思ひます。

3 寄付金決算

平成13年度は学園創立30周年目にあたったことから、いろいろと記念事業を企画、実施してまいりました。そのための資金として、教学振興資金に係る寄付金の募集を行ったところ、現今の厳しい経済状況にもかかわらず、下記のように数多くの皆様から貴重なご寄付を頂戴することができました。

お寄せいただいた寄付金は、記念事業のひとつに企画しておりました「学校教育環境整備工事(情報関連機器拡充等)」に充てることとし、平成14年2月に附属図書館へ設置した視聴覚設備並びにコンピューター等整備資金に充当させていただきました。

ここにご報告させていただくとともに、ご協力いただきました皆様には、改めて衷心より御礼申し上げる次第です。

ご寄付を頂いた方々		
卒業生	80名	776,000円
出入業者	32社	985,000円
祇王寺(大覚寺)		5,000,000円
同窓会		5,000,000円
教育後援会		2,000,000円
役員、教職員	58名	3,650,000円
合計		17,411,000円

平成13年度資金収支計算書				平成14年度資金収支予算書			
収入の部		支出の部		収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額	科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,821,094,620	人件費支出	1,129,687,008	学生生徒等納付金収入	1,492,560,000	人件費支出	1,200,882,000
手数料収入	55,465,433	教育研究経費支出	367,656,833	手数料収入	50,388,000	教育研究経費支出	318,177,000
寄付金収入	25,281,000	管理経費支出	247,664,796	寄付金収入	11,200,000	管理経費支出	209,595,000
補助金収入	117,045,220	借入金等利息支出	64,783,431	補助金収入	111,065,000	借入金等利息支出	59,561,000
資産運用収入	7,177,742	借入金等返済支出	107,940,000	資産運用収入	1,008,000	借入金等返済支出	168,440,000
資産売却収入	176,884,296	施設関係支出	366,693,002			施設関係支出	175,000,000
事業収入	1,829,500	設備関係支出	222,219,114	事業収入	850,000	設備関係支出	145,401,000
雑収入	83,096,620	資産運用支出	1,226,900	雑収入	132,526,000	資産運用支出	1,227,000
借入金等収入	330,000,000	その他の支出	59,280,241			その他の支出	48,960,000
前受金収入	715,462,500			前受金収入	664,300,000		
その他の収入	49,216,322			その他の収入	69,557,000	予備費	20,000,000
資金収入調整勘定	912,203,500	資金支出調整勘定	63,057,165	資金収入調整勘定	793,823,000	資金支出調整勘定	44,278,000
前年度繰越支払資金	2,605,906,404	次年度繰越支払資金	2,572,161,997	前年度繰越支払資金	2,440,713,404	次年度繰越支払資金	1,877,379,404
収入の部 合計	5,076,256,157	支出の部 合計	5,076,256,157	収入の部 合計	4,180,344,404	支出の部 合計	4,180,344,404

新体制発足

平成14年度の機構改革 および執行部体制について

今後の大学経営戦略において広報部門の果たすべき役割が大きいことは言うまでもありませんが、そうした広報活動が効果的に行われるには、大学の諸活動が企画性、計画性に富み、一貫した大学経営戦略を反映したものにならなければなりません。そのため平成14年度より、これまでの広報委員会、企画調査室にかえて「企画広報室」を設置いたしました。

また、大学附属の諸施設（図書館、博物館、ギャラリー、芸術文化研究所）を統合する組織「附属施設センター」を設置し、これら諸施設の活動内容が運営協議会で常時把握できるようにしました。

執行部体制(運営協議会メンバー) 敬称略	
学長	三好郁朗
芸術学部長 (教務部長兼任)	箱崎睦昌
短期学部長 (附属施設センター長兼任)	黒川彰夫
学生部長	有岡保行
入試部長	増田 洋
企画広報室長	大竹仁子

施設設備の拡充

新校地建設プロジェクト始動

平成14年3月、本学の隣接地である森原堤に面した「NTT施設跡地」の取得により、平成15年度内の完成を目指し、新校舎建設プロジェクトが動き出しました。

新校地は約2,200とさほど広くはありませんが、新校舎は、芸術大学のメインエントランスとして、嵯峨・嵐山の自然環境・景観に調和し、今後の本学園施設のあり方を理念的にリードするようなものを目指しています。

また、新校舎は講義・演習室をはじめ、情報をキーワードとした学生厚生施設やインターフェイス機能等を備えた施設とするともに、地域に開かれた生涯教育発信の場となる予定です。



附属図書館情報端末の充実

平成13年度末に学園創立30周年記念事業の一環として、附属図書館の改修と同時に、13のビデオブースと15台のインターネット端末を設置しました。昨今の情報化に対応するため、各種映像資料の視聴コーナーと就職や授業のための情報検索などに利用できるよう、自由使用が可能なPCコーナーを増設いたしました。



2002年度入学試験 結果報告

京都嵯峨芸術大学 入学試験結果										
造形学科 (分野別)	志願者数			受験者数			合格者数			競争率
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本画	22	115	137	22	111	133	3	25	28	4.75
油画	32	84	116	32	81	113	10	51	61	1.85
版画	6	29	35	6	29	35	3	20	23	1.52
メディアアート	27	47	74	23	46	69	9	21	30	2.30
彫刻	9	24	33	9	24	33	6	13	19	1.74
観光デザイン学科	71	149	220	69	149	218	11	48	59	3.69
総合計	167	448	615	161	440	601	42	178	220	2.73
京都嵯峨芸術大学短期大学部 入学試験結果										
美術学科 (標準コース別)	志願者数			受験者数			合格者数			競争率
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
日本画	10	93	103	10	92	102	6	37	43	2.37
洋画	20	56	76	20	55	75	11	40	51	1.47
混合表現	4	45	49	4	43	47	2	34	36	1.31
陶芸	8	33	41	8	33	41	8	33	41	1.00
染織	1	34	35	1	33	34	1	33	34	1.00
グラフィックデザイン	19	104	123	19	102	121	16	91	107	1.13
イラストレーション	20	133	153	19	133	152	9	88	97	1.57
インテリアデザイン	11	54	65	9	51	60	6	51	57	1.05
生活デザイン	9	33	42	9	32	41	8	32	40	1.03
総合計	102	585	687	99	574	673	67	439	506	1.33

合格者・競争率には第2志望合格者は含みません。

新任教職員紹介

山下 荘二郎(芸術学部 / 教職課程)



30年以上続けた教員生活を、京都市立日吉ヶ丘高等学校の校長を最後に離れ、京都市教育委員会に教育次長として赴任。

当時、現京都市長の榊本頼兼氏が教育長をされていたが、氏から約4年間教育行政についてのご指導を受け、その跡を引き継いで教育長に就任。退職後は、今までの経験を体系化するために机に向う。今般、縁あって本学の教職課程担当として就任。次代の教育を担う人材育成に力を尽くしますのでよろしくお願ひします。

江口 滉(芸術学部 / 教職課程)



京都市で高校教員を30年余り勤めました。前半の20年間は、陶芸科の教員として実習の指導にあたり、後の10年間は、管理

職として学校運営に携わってきました。勤務のかたわら、休日にはやきものづくりを続けてきました。やきものをつくりながら「私達の本当に豊かな生活とは何だろう」「日常生活を一層充実させるためにやきものづくりの果す役割は何だろう」というようなことを考えてきました。本学では、主に美術科教育法と教育実習を担当します。よろしく。

山村 高淑(芸術学部 / 観光デザイン学科)



「ヘリテージ・ツーリズム(文化遺産観光)論」を担当させていただき山村です。目下、中国大陸(特に雲南省)の文化観光の

実態を研究中です。「文献に頼らず、自分の五感で感じたことのみを信じる!」をモットーに、単身中国へ渡り、地元の人と寝食を共にしながら調査を始めて、はや10数年。現地滞在期間は総計で2年を超えてしまいました。苦しさ半分、楽しさ半分。それがフィールド・ワークの醍醐味。学生の皆さんにも、若いうちに一生付き合えるような自分だけのフィールドを発見してほしいと思います。

日野田 崇(短期大学部 / 陶芸)



芸大への進学を漠然と考えた頃、芸術大学と銘打ってある以上はそこでは芸術の定義が何かなされているものと思ひ込

んでいた。しかし実際にそんなものはなく、匂いのごとき芸術作品の方が言葉や理論づけを軽く凌駕してしまうことに気づいた。どうか学生の皆さんには自身のつくるものが最終的にいかなる形態をとるにしろ、それをあなた方の内面において深く「信じる」ということを大切にしながらしてほしいと切に願う。

西村 美香(短期大学部 / グラフィックデザイン)



グラフィックデザインコースに就任した西村美香です。京都嵯峨芸術大学には講義部門非常勤講師として10年程前から来さ

せていただいていたのですが、このたびは専任として実習授業も担当することになりました。慣れないながらもピシピシと授業を進めています。学生のみなさんも頑張ってください。大覚寺を始め車折神社や松尾大社など京都らしさにふれながらの日々は通勤の楽しみです。

田中 連子(事務局 / 企画広報課)



企画広報課へ配属になった田中です。これまで他大学で契約職員として大学の仕事に携わってきま

したが、立場も違い、また仕事内容も初めてのことはかりで、毎日戸惑いと新鮮さを感じています。京都嵯峨芸術大学の名が今以上に広く知れ渡るように、そして学生の皆さんが入学して良かったと思えるような大学になるよう、頑張っていきたいと思っています。至らぬ点もありますが、どうぞよろしくお願ひします。

笹部 真理(事務局 / 附属施設課)



主に博物館を担当することになりました笹部です。以前は他大学で働いていたのですが、芸術などに縁の遠いところでし

たので、この学校へ就任して学生を見ると、とても個性的で表情が生き活きて自己アピールができていなど感じました。さて、私本来の仕事である博物館は大学の外に向けての発信基地です。学生のみならず一般の方が多く見に来ていただけるような展示等を考えていきたいと思ひます。これからがスタートです。よろしくお願ひします。

寺田 裕(事務局 / 入試課)



入試課の寺田と申します。この春大学を卒業し、社会人としてスタートを切ったばかりで、初めての

仕事にいろいろ戸惑いながらも毎日過ごしています。入試課という部署は在学生と接する機会があまり多くはありませんが、いつも学生の立場に立って考え、より充実した学生生活を送ることができる大学にしていきたいと思ひています。まだまだ頼りないところがありますが、よろしくお願ひいたします。

平成14年度 新規任用非常勤講師

[芸術学部]	山崎 雄介
石森 秀三	海津 ゆりえ
原 清治	北野 治雄
坂井 定雄	仲 政明
栗原トミック・ラヴィーニョ	内海 福海
村上 幸三郎	山内 章
曾布川 寛	大島 成己
伊奈 新祐	二瓶 晃
小林 留美	多田 千明
大竹 茂夫	竹内 三雄
前田 弘	
宗田 好史	[短期大学部]
開瀬 知子	庄司 信弘
福次 敬郎	アレキサンダー・ベネット
南部 初世	ロ克蘭・リグビー・ジャクソン
鶴飼 敦子	村林 典博
矢ヶ崎 善太郎	清水 豊
松政 貞治	三宅 玲子
ピーター・デリック	安井 健二
ロ克蘭・リグビー・ジャクソン	安藤 真吾
雨宮 六途子	有馬 創
アレキサンダー・ベネット	菊原 啓子

順不同、敬称略

特別講座

「The Path of Colour」

4月23日(火)に開催された特別講座の講師 Julia Caprara氏は、イギリスの伝統的なニードルワークの技法を現代テキスタイルアートとしての表現にまで可能性を広げた先駆者的存在である。今回、京都で個展をされた機会に、自身のテキスタイルアートの発想や表現についてスライドレクチャーをしていただいた。作品に表現されたステッチ、布、糸、多様な色がつくりだすハーモニーはとても魅力的で、学生達は、刺繍の持つイメージを覆した新しい感覚の表現に魅了されていた。

「三嶽伊紗 自作を語る」

5月15日(水)、インスタレーション作品の発表を通して、現在幅広く活躍されている造形作家の三嶽伊紗氏の特別講座が開催された。自身の作品スライドを使いながら、日頃興味を抱いていること、こだわっていることはどんなことか、それをどのような方法で作品化するか、その作品から次へのステップをどのように踏み出したか等を語っていただき、学生達にアートシーンの現場を体験させた。

ギャラリー 「アートスペース嵯峨」

UA BY MOTOKO PHOTOGRAPH TOUR N KYOTO

本学卒業生で歌手のUAを、同じく卒業生の写真家MOTOKOが撮影した写真展「UA BY MOTOKO PHOTOGRAPH TOUR N KYOTO」が4月2日(火)~21日(日)に開催され、来場者は約1000名にのぼった。

写真展には、UAの母方の故郷である奄美群島の加計呂麻島等で撮影された中から17点が出展された。

谷口啓司 Image Making デザイン展「City & Street Identity 都市と街並のイメージづくり」



昨年、急逝された短期大学部グラフィックデザイン標準コース、谷口啓司教授のデザイン展『谷口啓司 Image Making』が、4月24日(水)から5月5日(日)まで同研究室を中心に企画、開催された。サブタイトルである「City & Street Identity 都市と街並のイメージづくり」のように、草津市や宇治市におけるCI計画、S計画をはじめ、ご専門の広告プランニング、デザイン作品の数かずが出展された。

開催中は、改めて谷口先生の業績を偲び、デザイン業界、教育関係者など大学内外の多くの方々にご覧いただいた。特に、教鞭をとられていた30年間に及ぶ卒業生が連日来場し、会場受付を担当した専攻科生はじめて在学生ともども、時空を越えた再会と交流の機会を持つことができた。

新鮮感2002

5月21日(火)から6月2日(日)までの期間、2年ぶりに「新鮮感2002」が開催された。

これは、KYOTO ART MAPの協賛事業として行っているもので、出品は、2001年度卒業制作展から新しいアートへの方向性が感じられる優秀作品19点を選抜し、展覧した。

行事、その他

大覚寺見学会

4月8日(月)に新入生オリエンテーションとして、本学の母体である大覚寺の見学会が行われた。狩野派の襖絵など、境内を見学した後、御影堂で坂口理事長から嵯峨天皇の離宮として建立された大覚寺の歴史や日本文化の特徴についての法話を拝聴した。

華道祭作品展示



嵯峨御流の祖とされる嵯峨天皇の命日にあわせ4月14日(日)~16日(火)の3日間、大覚寺で嵯峨御流「華道祭」が行われた。本学からは、短期大学部と専攻科在学生42名の作品を大覚寺境内に展示し、華道祭に彩りを添えた。

新入生歓迎会

4月20日(土)、学友会が主体となって、模擬店やフリーマーケット、ライブなど規模は小さいが学園祭が凝縮した形で行われた。学園祭と違うのは「ビンゴゲーム」。CDコンボ、お菓子詰め合わせなどの景品をかけて盛り上がった。

右京区制70周年記念 平松教授、舟のオブジェ制作

3月2日(土)に行われた京都市右京区制70周年記念事業で、平松國和教授(芸術学部/造形学科)制作の記念オブジェが設置された。この記念オブジェは、保津川下りの舟にも似た石が時の流れを表し、その舟に乗せられた30個のブロンズの一つひとつが1年ごとの時間を表現している。台座の中には右京区内の小中学生から1万5千通の30年後へのメッセージが収められた。

「旅の文化研究奨励賞」受賞

山村高淑講師(芸術学部/観光デザイン学科)が、旅の文化研究奨励賞を受賞された。この賞は、旅の文化研究所から、山村講師の中国雲南省の世界遺産都市・麗江における観光地化の経緯と社会的、文化的影響についての継続的な研究に対して贈られたものである。

国際交流委員会主催 ドローイングワークショップ

本学と交流の深いエディンバラ美術大学からDonald・ジョージ教授を迎えて、5月14日(火)・18日(土)の両日にワークショップが開かれ、約50名の学生が参加した。内容は、人体の解剖学的説明を骨格模型やヌードモデルを用いて行い、関節、腱、筋肉の構造を理解した上でヌードデッサンを描くというもので、好評を博した。

入学試験関連情報

2003年度 入学試験日程		
京都嵯峨芸術大学(芸術学部)		
試験種別	試験地	試験日
推薦入試	京都/東京/岡山	2002年11月11日(月)
一般入試(前期)	京都/東京/岡山	2003年1月27日(月)
一般入試(中期)	京都/東京	2003年2月28日(金)
一般入試(後期)	京都	2003年3月21日(金・祝)
入学特別選抜	京都	2003年1月27日(月)
京都嵯峨芸術大学短期大学部		
試験種別	試験地	試験日
自己推薦入試	京都	2002年11月3日(日)
推薦入試(前期)	京都/東京/岡山	2002年11月10日(日)
推薦入試(後期)	京都	2002年12月15日(日)
一般入試(前期)	京都/東京/岡山	2003年1月26日(日)
一般入試(中期)	京都/東京	2003年2月27日(木)
一般入試(後期)	京都	2003年3月22日(土)
入学特別選抜	京都	2002年11月3日(日)
社会人特別入試(中期)	京都	2002年12月15日(日)
社会人特別入試(後期)	京都	2003年2月27日(木)

3年次編入学

2003年度より、芸術学部3年生への編入学試験制度が始まります。詳細に関しましては、入試課までお問合せください。

[入試課]
TEL 075 864 7878(直)
nyush@kyoto-saga.ac.jp

2002年度 進学相談会・オープンキャンパス等予定					
日程	会場等	時間帯	形式	主催	
8月	1~3日(木~土)	京都嵯峨芸術大学	10:00~17:00	オープンキャンパス	本学
9月	16日(月・祝)	実技講習会(金沢・岡山)	10:00~	実技講習会(有料)	本学
	23日(月・祝)	京都嵯峨芸術大学	10:00~17:00	オープンキャンパス	本学
	24日(火)	フィラム8(東京)	13:30~18:00	相談会	3芸大
	25日(水)	静岡ステーションホテル	13:30~18:00	相談会	5芸大
10月	26日(木)	名古屋栄東急イン	13:30~18:00	相談会	5芸大
	5日(土)	京都嵯峨芸術大学	13:00~17:00	作品講評会・相談会	本学
	12日(土)	京都嵯峨芸術大学	13:00~17:00	作品講評会・相談会	本学
	19日(土)	京都嵯峨芸術大学	13:00~17:00	作品講評会・相談会	本学
	26日(土)	京都嵯峨芸術大学	13:00~17:00	作品講評会・相談会	本学

5芸大=京都嵯峨芸術大学/京都精華大学/京都造形芸術大学/成安造形大学/大阪成蹊大学(設置認可申請中)
3芸大=京都嵯峨芸術大学/成安造形大学/大阪成蹊大学(設置認可申請中)

京都嵯峨野文化サロン

京都嵯峨野に探る「平家物語」の世界
嵯峨野の地を舞台として展開した平家物語の世界を、講演および長い年月、日本人の間で伝統芸能として親しまれてきた演奏で実感していただき、現代を生きる私たちにとって、日本文化とは何か、日本人の美意識とは何かを感じ取ってください。

[第一夜]

9月28日(土) 17:30~19:30

講演/宮尾登美子氏

演奏/藤倉名生氏笛による「平家物語」

[第二夜]

10月5日(土) 17:30~19:30

講演/杉本秀太郎氏

演奏/橋本敏江氏 平家琵琶「横笛」

会場/旧嵯峨御所 大本山大覚寺

宸殿および御影堂(写経前殿)

定員/各200名

料金/1夜2,000円(2夜通し3,000円)

申込/往復はがきに住所、氏名、電話番号、年齢、希望受講日を明記の上、8月27日(火)~9月10日(火)必着で下記へ送付願います。

〒616 8362

京都市右京区嵯峨五島町1番地

京都嵯峨芸術大学 企画広報室内

「京都嵯峨野文化サロン実行委員会」

お問合せ/TEL075 864 7898(直)

kkaku@kyoto-saga.ac.jp

なお、往復はがき1枚につき、1名のお申込みとさせていただきます。また、希望人数超過の場合は、抽選となります。

附属博物館 企画展

「京の^{ひな}人形・鄙の人形 - その造形 -」

文化の発信地・京都の職人によってつくられ、都人に愛でられた「京の人形」の造形。その影響を受けつつ、我が国の変化に富んだ風土の中で育まれた「鄙の人形」の造形。「京の人形」の繊細さ、「鄙の人形」の素朴に見えながら研ぎ澄まされた剛胆さを感じてください。

期間/7月2日(火)~8月25日(日)

時間/10:00~18:00 入場無料

休館/毎月曜、8月11日(日)~19日(月)

教育後援会

地区別保護者懇談会のお知らせ

各担当教員が出席し、所属学科・分野・標準コース別に懇談いただきます。

[大阪会場]

日時/10月13日(日) 予定

16:30~19:30

場所/ホテルグランヴィア大阪

専任教員 展覧会情報

6/29~7/13	個展	GALLERYGALLERY, Gallery EX(京都)	奈良平宣子 生活デザイン
7/3~7/7	第24回日本新芸展	京都市美術館(京都)	吉水絹代 染織
7/20~8/18	第5回NEXT展	砺波市美術館(富山)	箱崎睦昌、林潤一 日本画
8/28~9/1	ファインド・アイ展	京都府文化博物館(京都)	伊勢信子 イラストレーション
9/1~9/20	第87回二科展	東京都美術館(東京)	伊庭新太郎、入佐美南子 油画
同上	同上	同上	黒川彰夫、瀧澤賢福 混合表現
9/7~9/13	グループM展	アトススポット松戸(千葉)	宇野和幸 油画
9/10~9/15	彫刻四人展	ギャラリー中井(京都)	橋本典子、平松園和 他 彫刻
9/13~9/25	個展	ギャラリー睦(千葉)	宇野和幸 油画
10/12~10/27	京都野外彫刻展	京都府植物園(京都)	伊勢信子 イラストレーション
10/16~10/31	二紀展	東京都美術館(東京)	泉地保雄 他 洋画
同上	同上	同上	伊勢信子 イラストレーション
10/19~11/24	モダニズムを生きる女性 阪神間の化境文化	芦屋市立美術館(兵庫)	西村美香 グラフィックデザイン
10/16~10/31	創画展	東京都美術館(東京)	土手朋英 日本画
10/22~10/27	個展	ギャラリーマロニエ(京都)	加藤明子 造形基礎
10/22~11/3	個展	平安画廊(京都)	村上文生 版画
10/30~11/27	洋画分野教員退職記念企画展	アトスペース嵯峨(本学)	木村昭三 洋画、伊庭新太郎 油画

期間、展覧会名、会場、出展者 所属の順に記載(敬称略)。非常勤教職員の展覧会情報はWEBサイトをご覧ください。

京都嵯峨芸術大学広報

第1号

2002年7月1日発行

編集●京都嵯峨芸術大学 企画広報室

発行●学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学

京都市右京区嵯峨五島町1番地

TEL.075-864-7859

FAX.075-882-7770

http://www.kyoto-saga.ac.jp

info@kyoto-saga.ac.jp

印刷●大光印刷株式会社